

K l a r k Y o s h i d a の校長室だより～2018 (12) ～  
～12月終業礼拝～

静岡英和女学院中学校・高等学校  
校 長 吉 田 幸 一



毎年、アドベントの季節には、同窓生からポインセチアが届けられます。校内に飾ることで、卒業生の母校への篤き思い入れを、在校生に感じ取ってもらっています。

12月の終業礼拝を迎えられたことを神様に感謝します。知の源である神様の御心によって建てられた静岡英和女学院は131年間朝の礼拝を欠かしたことがありません。聖書に誠実に向き合う気持ちを今日まで育んできています。終業礼拝に臨み、生徒の皆さんに伝える内容があります。

一つ目は、保護者会の寄付金により、1号館事務室前の手洗い場を改修したことです。従来の洗い場ではスカートなどを傷めた生徒もいて、安全性を第一にデザインを考えました。また、蛇口を非接触型に変更することでインフルエンザ等の罹患防止にも役立ちます。多くのお母様がデザインを提案してくれ、学校側と調整の上、改修することができました。

二つ目は、中学1年生の生徒がとった行動が、静岡県私学協会の善行賞を受賞したことです。その生徒は重い荷物をもった年配の女性の手助けをし、お礼と感謝の電話を頂いたというものです。日常生活の中で、困っている人や補助が必要な人への手助けは大変立派な行動です。私たちは毎朝の礼拝の中で、隣人愛について考えることが身についています。今回の中学1年生の行動は生徒の模範となった善行で、大変うれしく感じます。

三つ目は、校長室前のリクエスト・ボックスに寄せられた要望や意見です。多くは、新たな部活をつくってほしい、あるいは部活で使用している用具や楽器の修理依頼などでした。経費もかかることから、十分な対応ができなかったかもしれませんが、これからも可能な限り、要望には応えたいと考えています。

四つ目は施設訪問についてです。12月15日にクリスマス訪問に出かけた生徒も多数いたと思います。私も高校生6人と近隣の社会福祉施設に伺いました。讃美歌を歌い、ゲームや絵本の朗読をしながら、ふれあいの一時をもちました。施設の壁には次のような掲示がされていました。年をとるって どんなこと？

1. 年をとるって どんなこと？ 忘れっぽいと いうけれど  
いっぱい詰まった 知恵の箱から 出すのに ちょっと迷うだけ

他の内容も掲示されていましたが、時間の関係で割愛しますので、学校ホームページの校長室だより(11)をご覧ください。

クリスマス訪問の意義や目的を考えながら、宗教行事に参加してほしいと思います。また、商業施設

などでクリスマス・イベントに参加する時、登下校時の皆さんの行動にも、英和生らしさを感じてもらえるような言葉遣いや行動をお願いします。

五つ目は、明日 12 月 22 日は生徒の皆さんが楽しみにしているクリスマス礼拝についてです。一般的にはクリスマスには子どもたちはプレゼントがもらえるとか欲しい物を買ってもらえるなど、子どもたちが主役のようにとらえられています。しかし、実は、クリスマス (Christ-mas) とはイエス様を礼拝することで、イエス様への感謝の気持ちを伝えることです。主役はイエス様なのです。イエス様は、肌の色、言語の違いや宗教・地域の違いによる争いや紛争をお望みではありません。地上のあらゆる国の人が幸せに平和に暮らせるように見守ってくれています。そのことを私たち一人ひとりが実践できるように神様から尊いのちを与えられています。その意味では、世界の平和実現のための主役は一人ひとりの人間であり、皆さんであるとも言えるのです。イエス様に感謝するとしたら、静岡英和女学院の皆さんが平和を創りだす主役となることなのです。

お祈りします。

知の源である神様の御心によって建てられた静岡英和女学院は本日 12 月の終業礼拝の日を迎えることができました。神様に感謝いたします。そして、明日のクリスマス礼拝も御旨にかなうようお導きください。恵みの泉である神様、あなたは、罪のために刺し貫かれた御子の御心を通して、泉からあふれでる奔流のように、私たちに、限りない恵みを注いでくださいます。御手を伸べて私たちの心を開き、開かれた心を恵みであふれさせてください。私たちは他人に対しても心を開き、受けた恵みをすべての人とともに分かち合いたいと望みます。御子の脇腹から流れ出た血と水によって与えられた新約の恵みが、すべての開かれた心を通して、地の表を新たにしますように。この祈りを主イエス・キリストの御名により御前にお捧げします。 アーメン。